

# 【概要版】桜川市新図書館建設基本構想

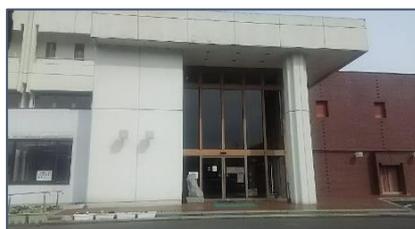
## I. 桜川市図書施設の現状と課題（基本構想 P2～P6）

### ◆現状

桜川市には旧町村単位で3つの図書施設が存在し、合計で約60,000冊の蔵書を備える。そのうち岩瀬・大和両公民館は築40年程度を経過し老朽化が著しい状況である。



真壁図書館



岩瀬中央公民館



大和中央公民館

### ◆課題

桜川市の図書施設が抱える課題は以下のとおり。

- ・ 図書館が無い市

桜川市は、全国792市ある市のうち、図書館を備えていない8市に含まれる。

- ・ 蔵書数の不足

市の人口規模に合う蔵書数※は、207,000冊とされる。（桜川市は現在約60,000冊）

※…日本図書館協会基準、人口40,000人の場合で試算

- ・ 中央館機能の不足

市内全域に図書サービスを提供するための中央館施設がない。

- ・ 既存公民館施設の老朽化

2つの施設については老朽化が著しく、今後の方針も含めて検討することが必要。

- ・ 現代の図書施設に求められる機能の不足

近年整備される図書館として求められる施設・設備が不足している。

### ◆新図書館に求められる機能

- ・ ハード面：蔵書数，充実した学習スペース，閲覧スペース，バリアフリー化 等
- ・ ソフト面：ネット予約や貸出のセルフ化，託児サービス，郷土資料の電子化 等
- ・ 快適な読書環境・学習環境の実現：

飲食スペース，企画展示コーナー，個別・グループ双方に対応した学習環境 等

- ・ その他：省資源・省エネ・コストへの配慮，災害に強い，感染症対策 等



カフェスペース（八千代市立図書館）



読み聞かせスペース（北茨城市立図書館）

## II. 新図書館のコンセプト（基本構想 P7）

知識と文化を集積し、夢や感動に出あうことができる

柔軟で多様な学びの場を提供する

新しいライブラリー&デジタルミュージアムの創出

### ◆コンセプト実現のためのテーマ

1. 電子図書館システムなどのICT機能を核に、自由なスタイルで学びの機会を提供する、先進的な図書館
2. 貴重な資料や情報を収集、記録、保存し、人々のニーズに応じて提供できる、智の拠点となる図書館
3. あらゆる市民が本や電子メディアや人とつながり、多様な学びにふれることで、未来への夢や感動と出あい、生涯を通じて学び続けることの喜びを発見できる図書館
4. 桜川市の産業・文化資源をデジタルアーカイブ化して収集・記録・保存し、誰でも閲覧し、学ぶことができる、デジタルミュージアム※機能を持った文化を未来に継承する図書館
5. 地域社会の未来をつくる子どものものために、幼児施設や小・中・義務教育学校、高等学校と連携・協力し知的好奇心を育み、学ぶよろこびが発見できる多様なプログラムをうみだす図書館

※…電子化された文化資源を閲覧できる機能を博物館に見立ててデジタルミュージアムとした

## III. コンセプトを実現するために必要な基本的機能（基本構想 P8～P12）

### 1. 必要となる蔵書数（他自治体は県内で比較）

- ・日本図書館協会による適した基準…人口40,000人の時 207,000冊
- ・日本図書館協会による図書館としての最低基準…50,000冊
- ・同規模自治体…195,868冊（常陸大宮市），166,058冊（北茨城市），154,395冊（稲敷市）
- ・県内小規模市立館…**97,546冊**（行方市），**90,876冊**（鉾田市），**80,776冊**（小美玉市）
- ・コロナウイルスの影響により、来館による貸本需要が減少⇒電子図書館導入  
⇒コロナによる影響を考慮し、電子書籍を加えて100,000冊程度を目指す。

### 2. 閲覧スペースの検討

蔵書とデジタルメディア（市の産業・文化・歴史に関する電子資料など）をリンクして学べる環境整備を目指す。

- ・個人・グループなど、様々な用途を考慮した閲覧スペース
- ・書架や企画展示と合わせた「夢や想像力を引き出す学びのスペース」の実現
- ・広めの間隔や仕切り、向かい合わない座席配置⇒感染対策の取れた計画

### 3. わかりやすい書架配置の検討

閲覧スペースと一体的に計画し、館全体が一つの学習空間になるよう計画

#### 4. 時と場所を選ばず活用できる、ICTによる学習機能の検討

ICT機器の活用により、時と場所を選ばず学習機能を提供する。

- ・ 電子図書館による、在宅でも利用可能な図書サービス（利便性向上と感染対策）
- ・ ネット予約、新聞・雑誌の電子版、記事のデータベース検索などの検討
- ・ 市の産業、文化、郷土資料などのデジタルアーカイブ※構築  
⇒ 図書館を 桜川市のメディアセンターとして位置付ける。

※…有形・無形の文化資源を電子化して記録・保存すること



デジタルアーカイブの例

#### 5. 飲食可能スペース設置の検討

飲食スペースの検討…飲食物の販売・提供、運営方法 など

#### 6. 桜川市の図書施設の中央館としての機能

- ・ 桜川市の記録（学術資料、地域産業、伝統文化、文化財など）を電子資料として収集・保存し、誰でも閲覧可能な体制の構築
- ・ 市内図書施設の司令塔として機能し得る機能的な事務・作業スペースの確保や、市内図書施設への提案・指導を行う体制づくり

#### 7. 学習プログラムの充実

幼児期から高校までの教育機関等との連携による 学習プログラムを開発・提供

#### 8. 子どもの読書活動の推進

おはなし会・読み聞かせ会の実施や、子どもの読書活動の推進

#### 9. 快適な読書環境の実現…空調や音・光環境への配慮、質の良い家具 など

#### 10. ユニバーサルデザインを取り入れた施設整備の検討…誰でも使いやすい施設の実現

#### 11. 市民が利用しやすいアクセス性の確保…来館しやすい施設の実現

### IV. 市内他公共施設との連携（基本構想 P12）

- ・ 複合化が可能な場合、複合化して敷地全体による 「生涯学習拠点」を形成
- ・ 新築部分を最小限に抑えつつ、図書館機能の充実を目指す

### V. 省資源・省エネルギー・低コスト化への取り組み（基本構想 P13）

- ・ 省資源、省エネルギーによる環境対策、ランニングコスト低減
- ・ 建設やメンテナンス費用の低減のため、できる限り汎用品を利用

### VI. 安心・安全への配慮（基本構想 P13）

- ・ 東日本大震災被災地として、特に地震に強い建物を目指す
- ・ 建設計画、設計時から 感染症対策を盛り込むこと

### VII. その他（基本構想 P13）

- ・ 市の 景観計画を基に都市整備課と協議して 景観に配慮したデザインを採用

## VIII. 立地の検討（基本構想 P14～P16）

### 【建設地の前提条件】

- ・市民の交通の便が良いこと
- ・他の公共施設等の利活用を視野に入れること
- ・図書館に関する経緯を踏まえ、岩瀬地区とすること

#### 1. 岩瀬中央公民館敷地内

- 岩瀬中央公民館の建て替えとあわせて複合施設化が可能
- 敷地は市有地であり、新たな土地取得が不要
- ×公民館利用者が多く、代替施設の検討が必要



岩瀬中央公民館

#### 2. 岩瀬庁舎敷地内

- 庁舎整理後の支所機能と複合施設化が可能
- ×庁舎が進捗しないと建設不可



岩瀬庁舎

#### 3. JR岩瀬駅周辺

- 岩瀬駅利用の学生、社会人による利用が見込める
- りんりんロード自転車拠点との複合化が可能
- ×事業用地が未確定（用地取得が必要）
- ×一般住宅が近いと、建築計画に配慮が必要



岩瀬駅周辺

## IX. 運営形態の検討（基本構想 P17）

図書館の運営を直営で行うか、外部に委託するかの検討を行う。

#### 1. 直営のメリット・デメリット

- 地元雇用の創出、一貫した運営
- ×資格職である司書の雇用が必要、サービスの固定化の恐れ

#### 2. 指定管理（委託）のメリット・デメリット

- 限られた財源内でのサービス向上、民間のノウハウ導入、直接雇用が不要
- ×サービスの一貫性・継続性がなくなる、管理者定着による競争性欠如の恐れ

## X. スケジュールについて（基本構想 P18）

### 【令和2年度】

基本構想策定，検討委員会開催，基本計画策定

### 【令和3年度】

基本設計着手・完了，実施設計着手，運営形態検討

### 【令和4年度】

実施設計完了，工事着手（造成，建設），家具・備品選定

### 【令和5年度】

工事（建設，外構），指定管理者選定（指定管理の場合），備品購入  
開館準備，開館